

川崎

母親のために、ボール紙で作った音声拡張器を手にする松田正雄社長＝高津区で



小型化でおしゃれに

最初に製品化した音声拡張器「クリアーボイス」のきっかけは年老いた母親の姿だった。九十歳を過ぎた母タネさん（一九九九年に九十九歳で死去）は、すっかり耳が遠くなっていた。補聴器は使いづらかった。「何か作ってきてやるよ」。伊吹電子（高津区末長）の松田正雄社長（右）はボール紙を利

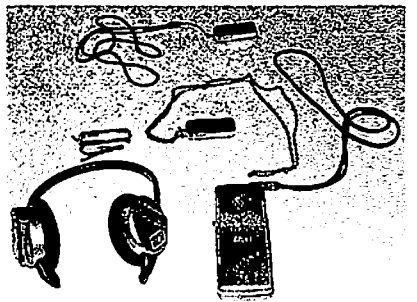
音声拡張器「i-ペンダント」

用した音声拡張器を作り、タネさんに手渡しした。「よお聞こえ」の言葉が身に染みると同時に、ひらめいた。「製品化できないか」

原理は簡単。マイクで集めた音をアンプで増幅し、スピーカーに出力し、手で耳に近づけて聞く。九七年から開発に着手。東京・秋葉原で中古の携帯電話

を手に入れ、デザインの参考にした。樹脂を素材に、手から滑り落ちないデザインを考案、長時間使えるように乾電池式で製作。しかし二年後の完成時にはタネさんは既に他界していた。松田社長は誕生したクリアーボイスを仏壇に供えるしかなかった。

だが、「二十年ぶりに娘の声がはっきりと聞き取れた」などの反響があり、クリアーボイスは十万台売れるヒ



「i-ペンダント」は本体重量は10g。5時間の充電で連続40時間の使用が可能。音量調節付きの両耳イヤホン差し込むだけでスイッチオン。1万円。東急ハンズ川崎店（川崎区駅前本町、ダイス5階）などで販売。伊吹電子＝☎（888）3796でも直売。

川崎スタイル

13

ット商品に。「手に持たずに使えないか」との要望で次に作ったのが、ヘッドホンのよう

に耳にかける「ボイスカムバック」（二〇〇二年販売開始）。こちらにも二万台の売れ行きだった。

クリアーボイスは「川崎ものづくりブランド」にも認定され、金融機関の窓口で置かれたほか、市の敬老祝いの記念品にも選ばれた。

同社では、さらなる小型化とおしゃれなスタイルを目指し、ペンダントやタイプンとしても使える「i-ペンダント」を開発、〇六年四月から売り出した。もとは大手家電メーカーの技術者で十七年に独立、十畳足らずの作業場に始まる会社を育ててきた。

松田社長は自信を込める。

（加藤行平）